

学校教育目標 ～ともに学びをきりひらいていく子どもの育成～ ○「求め続ける子ども」 ー学びへの関心意欲を強くもち、常に学びを求め、自分から学び、学びの対象に粘り強く関わることができる子どもを育てます。【知】 ○「創り上げる子ども」 ー自分の思いや願いを大切にしながら自己の改善を図り、質的な高まりを目指して創造的に学ぼうとする子どもを育てます。【徳・体】 ○「共に生きる子ども」 ー「ひと」「もの」「こと」に積極的に関わりながらそれぞれのよさを感じ取り、互いに支え合い、共に学び、学びや生活に生かしていく子どもを育てます。【公・開】	創立 152 周年	学校長 馬渡 照代	副校長 井口 さと子	2 学期制	一般学級: 20	個別支援学級: 5
	児童生徒数: 642 人 主な関係校: 横浜市立南中学校 横浜市立井土ヶ谷小学校					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 ○知識及び技能 ・知識の本質が分かる。・問題を解決するプロセスのよさを理解する。 ・各教科を通して身につけた技能を目的や対象に応じて効果的に使う。 ○思考力・判断力・表現力等 ・目標や課題を設定し、解決の見通しをもつ。・必要な情報を適切な方法で収集する。・多面的、多角的に捉えて妥当な考えを創り出す。・相手や目的に応じて、伝えたいことを効果的に表現する。 ○学びに向かう力、人間性等 ・粘り強く取り組む。・進んで働きかける。・互いのよさを生かして、より良いものを創ろうとする。	南中 ブロック 南中学校 井土ヶ谷小学校 大岡小学校	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 「自主性」 ・あいさつができる子ども 「自己肯定感」 ・粘り強く物事に取り組める子ども 「コミュニケーション力」 ・相手の話を受け入れ、更により良いものを目指す子ども ・ブロック授業研究を行うとともに、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）からの学習意欲を高める授業」をテーマとして、子ども達の興味や主体性を伸ばして行くために、ICTの効果的な活用方法を含めた教研を進める。 ・中学校において、生徒主体で部活動体験などの交流を行うことにより、安心して中学校に入学できるように中1ギャップを解消する。 ・子ども像を共有しながら児童生徒指導や特別支援教育の情報交換を行う。
--	--	--

中期取組目標 ◎大岡小学校のよさ(子ども主体の教育、「生活科・総合的な学習」を軸に展開する重点研究と授業改善、地域との深い繋がり、企業とのコラボレーション等)を生かし、持続可能な組織的取り組みによる教育活動を展開する。 ○「自分の願いや問いをもち、追求する子ども」を研究主題に据え、学びの中で素朴な「問い」を見つけて「解決すべき問題」として言語化し、追求していく力を育むことで、個々の資質・能力を高めていく。 ○子ども主体の教育活動を展開するため、「なかよし活動」を軸に自治的・自主的に集団活動を行い、互いのよさを生かして「自分達の活動は、自分達で創り上げる。」という意識と態度を育てる。 ○まちの「人」や商店街との深い繋がりを教育活動に生かし、豊かな経験を積むことで学びを深めると共にまちを愛する心を育てる。 ◎大岡小学校のよさがさらに発展するような、教育的資源(ひと・もの・こと・財源)を確保する。 ○「質の高い学び」と「持続可能な学校」を両輪として、一体的に進めるための「働き方改革」を実現する。
--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	学習指導要領、横浜市立カリマネ要領に準拠した特色ある教育課程を編成・評価・改善する。①カリキュラムレベルにおいて、大岡の時間を中核とした各教科等との資質・能力の関連を図った学級カリキュラムを運用する。②単元レベルにおいて、指導と評価の一体化、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。③授業レベルにおいて、教師の役割を明確にするとともに、子どもの自己表現の力を伸ばす学びづくりを目指す。
担当	学習指導部	
徳	人権教育	①ANI委員会を中心に普段から子ども中心に人権意識を高める活動を行う。②人権週間にゲストティーチャーを呼んだり、普段の道徳を充実させたりして子どもたちの人権意識を高める。③全職員で全児童を育てていくという意識をもつために、児童理解の時間を定期的とったり、職員に校内研修を行ったりする。
担当	児童指導部	
体	食育	①「食育全体計画」を作成し、全教職員が子どもの食の実態に寄り添った指導を行う。特に咀嚼教育や偏食の改善、バランスのよい食生活に重点を置く。②学校保健委員会で食に関するテーマを取り上げ、ICTを活用し、保護者や地域と連携しながら学校全体で子どもの健康増進を図る。
担当	健康推進部	
公開	大岡の時間	研究主題「自分の願いや問いをもち、追求する子ども」の実現に向けて、①単元構想(材の分析・ゴールの明確化・願いや問いが生まれる単元展開の工夫・個の探究の充実を目指した単元展開の工夫・ICTの活用)②地域・専門家との連携③環境構成の3つの観点から、学びづくりに取り組む。
担当	研究推進委員会	
	いじめへの対応	①児童支援専任を中心に、保護者・子どもの教育相談の実施や関係機関との連携を組織的に行う。いじめ防止対策委員会等で積極的に情報交換を行い、全職員で共有し指導にあたる。②いじめの未然防止・早期発見のため子どもの見取りやアンケート等を実施し、「報・連・相」を確実に実行。また、アンテナを高く張って、児童の心の状態を的確に把握する。いじめが発見された場合は、即時解決するため全職員が一丸となって解決に向けて取り組む。また、再発防止のため、長期間見取りを行うと共に、保護者と面談し意識改革を行う。
担当	児童指導部	
	人材育成・組織運営(働き方)	①授業力や児童指導、危機管理能力等の教職員の力量向上に向け、いつでも授業を互いに見合える風通しのよさを維持し、授業公開や授業参観を行う機会を多くもつ。②キャリアステージに応じて、問題意識と向上心をもって研修に取り組むとともに、互いの悩みを共有し、支え合える関係づくりの場を築いていく(メンターチーム)③精選され確保された時間を有効に活用し、教材研究や児童指導、学年内での情報共有などの時間に当て、先の見通しをしっかりとって教育活動を展開する。
担当	教務部・メンターチーム	
	特別支援教育	①「個別の教育支援計画」を作成し、子どもと保護者の思いに寄り添った支援に努める。次年度への引き継ぎを確実に実行。(個別の教育支援計画、指導計画の作成) ②特別支援教育校内委員会を設置し、個々のニーズに応じた効果的な支援(個別学習教室、国際教室、サポート教室等)を行う。保護者と適宜面談を行い、困り感を共有する。(特別支援教育校内委員会の開催) ③課題解決のため関係機関に迅速に繋がられるよう、個々の見取りと情報共有を確実に実行。(特別支援教育校内委員会)
担当	特別支援教育校内委員会	
	児童指導	①配置型SSWを活用し、リスクのある子どもへの支援をモニタリングし、問題行動等の未然防止、早期発見、組織的対応に努める。(SSWによるモニタリング) ②リスクのある子どもの記録を蓄積し、客観的事実に基づいて問題解決型ケース会議を実施し、問題行動等の解決に努める。(ケース会議の実施) ③「学びを創る手引き」を共有し、子どもたちが主体的に「気持ちよく学べる環境作り」に取り組めるよう支援する。そのためには、教師もしっかりと指導性を発揮し、一体となって「より良い学級風土作り」に取り組む。
担当	児童指導部・学習指導部	
	地域学校共同活動	①学校運営協議会を開き、実施方法や内容を踏まえ、今後より質の高い運営となるよう継続して連携を図る。②まちの「人」や商店街との深い繋がりを教育活動に生かしていく。③学級の取り組みや学校行事を中心に多くの場面で地域や保護者に「大岡の時間」の取り組みや子どもたちの学びを発信していく。
担当	児童指導部・教務部	
	情報教育 GIGAスクール構想	①情報活用能力を伸ばすことができるように、情報教育活用計画を作成し、アプリや各教科での活用の仕方をまとめ、教職員に発信していく。②HPで子どもの姿の発信を継続していけるように体系を維持する。③一人一人の課題やめあてに応じた学習を進めることができるように、デジタルドリルやアプリの導入、活用を進める。
担当	学習指導部・視聴覚部	